

Press Release

2026 年 8 月 3 日

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086
神戸市中央区磯上通 5-1-28
www.lilly.com/jp

EL26-36

日本イーライリリー マンジャロの大幅な薬価引き下げに対する声明を発表 ～国際競争下における日本への長期的投資の持続のために、 そして患者さんがイノベーションを享受するためには、 予見可能で透明性の高い政策環境が不可欠～

日本イーライリリー株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役社長:カーラ・アルカサル、以下、日本イーライリリー)は、2026年5月13日に厚生労働省の諮問機関である中央社会保険医療協議会より発表された、当社の2型糖尿病治療薬であるGIP/GLP-1受容体作動薬「マンジャロ皮下注」(一般名:チルゼパチド、以下「マンジャロ」)に対し、「持続可能性特例価格調整」が適用され、2026年8月1日付で25%の薬価引き下げが実施されたことについて、以下の声明を発表いたします。

日本イーライリリーは50年以上、イーライリリー・アンド・カンパニー(以下、「リリー」)としては100年以上にわたり、日本の患者さんに革新的な医薬品を届けるため尽力してきました。そして日本市場の成長と期待、そして日本の患者さんに貢献するため、世界における主要な投資市場の一つとして、ドラッグラグ・ドラッグロスを解消するための世界同時開発・同時上市を実現してきました。さらに2022年以降、西神工場に270億円を投資しています。

一方当社は、今回、マンジャロに対する持続可能性特例価格調整の適用が決定されたことに対し大きな懸念を抱いています。なぜなら研究開発や製造への長期的な投資の継続、革新的な医薬品の導入、そして新たな治療選択肢への患者さんによる迅速なアクセスを支えるためには、予見可能で透明性の高い政策環境が不可欠であるからです。近年の持続可能性特例価格調整を巡る動きは、日本の薬価制度の予見可能性を損なうリスクがあり、将来の投資判断にマイナスの影響を及ぼす可能性があります。薬価制度は、イノベーションの価値を適切に評価し、新たな治療への患者アクセスを確実に支えるものであるべきと考えます。

今回の決定によって、マンジャロの薬価引き下げが大幅に、かつ想定されていた時期よりも大きく前倒しで実施されることとなりました。これは、想定を上回る多くの2型糖尿病のある人を支援することで極めて大きな価値をもたらし、結果として広く使用されるようになった画期的な医薬品に対する不当に不利益な対応であると考えます。

今回の事例に限らず、日本では、医薬品が上市された後に適用される薬価制度のルールが十分な予告なく変更されることが少なくなく、またその内容は有効性の高い革新的な医薬品に不利益を与えるものとなっています。そのような予見性の低い日本市場は国際投資先としての魅力を失うこととなり、結果として、ドラッグラグ・ロスが深刻化し、日本の患者さんが利用できる治療選択肢が他国に比べ限られてしまう可能性が十分に考えられます。

高市 早苗 内閣総理大臣の成長戦略ロードマップは、日本の世界トップクラスの公衆衛生システムをさらに強化し、イノベーションを重視する活力ある国内ライフサイエンス産業を育成し、次世代医薬品の実現を支える国際投資の主要な受け入れ先となるという明確なビジョンを示しています。しかしながら、今回の持続可能性特例価格調整の適用は、そのビジョンと整合していません。これは、日本の薬価制度の予見可能性と安定性を損なう判断であり、ライフサイエンス分野への投資獲得を巡る国際競争が激化する中、日本が革新的な医薬品をどれだけ重視しているのかについて懸念を抱かせるものです。

日本におけるマンジャロの薬価は、すでにG7諸国の中で最も低い水準にあります。さらに今回の薬価引き下げが行われることにより、日本のマンジャロの薬価は世界における同等規模の経済圏の中で最も低い水準となります。このような低薬価は、不適正使用の増加や、海外からの医療ツーリズムの拡大、さらには利益目的の買い占めや海外への転売といった追加リスクの発生を助長することが十分に考えられます。結果として、日本国内で2型糖尿病治療のために既にマンジャロを使用し、治療の継続を必要としている患者さんに対して、安定的な供給ができなくなる可能性があります。

こうしたリスクを避けるためにも、日本イーライリリーは、マンジャロを真に必要とする2型糖尿病のある方々へ適切にマンジャロをお届けできるよう、供給計画を慎重に精査し尽力してまいります。同時に、日本の患者さんと医療制度の双方にとって真の利益となる、公平で透明性が高く、持続可能な制度環境の整備が実現されるよう、日本政府および関係者の方々との対話を継続するとともに、日本から他国への医薬品の転売を厳格に規制する措置を速やかに講じていただけるよう日本政府に求めてまいります。また、当社は今回の決定がもたらす影響を慎重に評価しており、対応可能なあらゆる選択肢を検討しています。

日本イーライリリーは、患者さんの安全を最重要事項として捉えており、患者さんが治療アクセスを損なうおそれのある政策上の課題解決に積極的に取り組んでまいりました。今後も、日本政府および関係者の方々と協力しながら、患者さんの安全を支え、イノベーションを適切に評価し、患者さんが革新的な医薬品に継続的にアクセスできる、公正で透明性が高く持続可能な環境の実現に取り組んでまいります。

以上

チルゼパチドについて

チルゼパチドは、週1回投与のグルコース依存性インスリン分泌刺激ポリペプチド(GIP)受容体およびグルカゴン様ペプチド-1(GLP-1)受容体の両受容体に作用する作動薬であり、元々体内に存在するインクレチンホルモンであるGIPおよびGLP-1の体内受容体を活性化する単一分子です。GIPとGLP-1の受容体はいずれも、食欲調節に重要なヒトの脳領域に認められます。チルゼパチドはカロリー摂取を減少させ、その効果は食欲への作用を介していると考えられています。

チルゼパチドはこれまで、日本において、2023年に2型糖尿病治療薬「マンジャロ」として発売されました。また2025年には肥満症治療薬「ゼップバウンド」として発売され、さらに2026年5月には中等症以上の閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する治療薬「ゼップバウンド」としても適応追加承認を取得しています。

日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、米国に本社をおくグローバル製薬企業イーライリリー・アンド・カンパニーの日本法人として、最先端の科学技術を基盤とした革新的医薬品の研究開発および供給に、50年以上にわたり継続的に取り組んでいます。ダイアベティス(糖尿病)、肥満症、がん、アルツハイマー病を含む中枢神経系疾患、自己免疫疾患など幅広い領域において医療の可能性を切り拓き、誰もが必要な医療を安心して受けられる社会づくりや、人々の健康で豊かな人生の実現に貢献してまいります。

詳細は当社ウェブサイトをご覧ください。<https://www.lilly.com/jp>

イーライリリー・アンド・カンパニー(リリー)について

リリーは世界中の人々のより豊かな人生のため、科学に思いやりを込めて、革新的医薬品を創り出す製薬会社です。約150年にわたり、リリーは患者さんの人生を変えるような発見や開発を続け、今日では世界中で年間5,100万人以上の患者さんに医薬品を提供しています。糖尿病治療における変革に加え、肥満症やアルツハイマー病への継続的な挑戦、自己免疫疾患へのソリューション提供、そして最も治療の困難ながん(癌)を共生可能な疾患に変えること。こうした世界で最も重要とも言える健康課題の解決を目指し、リリーの科学者たちはバイオテクノロジー、化学、遺伝子医学を駆使して一刻も早く患者さんに医薬品をお届けできるよう、開発に取り組んでいます。この世界の多様性を反映した革新的な臨床試験や医薬品へのアクセス改善を含め、「世界中の人々のより豊かな人生への貢献」という使命を胸に、リリーはさらなる健康な世界の実現に向けて、一歩ずつ歩みを進めてまいります。リリーの詳細については、[Lilly.com](https://www.lilly.com)や[Lilly.com/news](https://www.lilly.com/news)をご覧ください。

【本件に関するお問い合わせ先】

日本イーライリリー株式会社 コミュニケーションズ本部
TEL:0120-925-500 Email:okawa_mizuki@lilly.com

〈このプレスリリースは、重工業研究会、本町記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ、道修町薬業記者クラブ、神戸経済記者クラブへ配付しております〉